

2014年6月18日(水)

株式会社ベーシックシステム

本社オフィス会議室

- ◆ 委員長：中澤信夫 副委員長：金子純代 議長：久保田悟
- ◆ 事務局：熊谷一樹 加藤文弥
- ◆ 書記：加藤文弥 中山遼平
- ◆ 出席者(順不同)：上松慮生 石黒建太郎
- ◆ 開会(19:02)

- ◆ 東京オリンピック・パラリンピックについて
 - ・ キールボートパーク(100年構想)を基にKBK委員会の取り組みを考えたい。(中澤)
 - ・ レースオフィサー、ジュリー、計測委員等々のスタッフ育成が急務だが、育成に必要な日数的にも厳しいため、その実現に不安が残る。今後6年間、レース運営のトレーニングとして若洲及び全国各拠点では多くの国際レガッタが行われる予定である。(中澤)
 - ・ オリンピック閉会後にディンギーとキールボート両方がセーリング可能な海面を確保できるのか？(石黒)
 - ・ 海外のセーラーやコーチは船舶免許の問題があるが、簡単に海技免状を取得できるよう、海上保安庁や小型船舶機構に対して手続きの改正をお願いしている。
 - ・ 若洲のヨット訓練所及びオリンピックハーバー予定地は公園であり一般的には車が進入禁止のため、ヨットを車運搬できないといった制約がある。オリンピックを機に変更の可能性はないのか？
 - ・ ハーバー関連の建物を(一部)仮設で作るという案も出ている。(上松)
 - ・ オリンピック閉会後に使わないものは仮設で作るべきではないか？
 - ・ 各国チームのコンテナ等を置くスペースはかなり広く確保しなければいけない。
 - ・ 交通手段が限られている為、駐車場スペースはもちろん、フラットなスペースはかなり必要。
 - ・ 現在のハーバー計画の青写真は入手可能なのか？
 - ・ ロンドンオリンピック会場であったウエマスのオリンピックハーバー平面図と現在予定している若洲予定地を比較すると、どの位広さに違いがあるのか？
 - ・ JSAFの要望として、何を常設すべきか提案して欲しいとのこと。
 - ・ 横浜ベイサイドマリーナのように商業施設併設により一般来場者が見込める。
 - ・ お金と人を動かすためには経営者としての手腕が必要なのではないか。キールボートのオーナーのような資金力・マネジメント力がある人を迎えるべき。オリンピックのエリ

ア運営をキールボートチームごとでまとまるといった、統率力と高いセーリング知識をもつメンバーで編成するのも一案である。

◆ オリンピックセミナー（6/13）及び理事会（6/14）報告事項（中澤）

- ・ 理事会の役員人員の報告。
- ・ 2014年はレーザー4.7とスナイプマスターズの国際レースが日本で行われる。
- ・ 普及委員会の活動事業の年間スケジュールの報告。
- ・ リオデジャネイロのプレプレオリンピックへの視察予定があり J S A F より 3名派遣予定。
- ・ 大谷さんの言ったとおりに実現できればオリンピックは成功すると思う。（上松）
- ・ JTB、日本マリン事業協会が沖縄でのボートショー開催を検討中である。中国や台湾、韓国、台湾、ロシアなどのオーナーを招致するため、上海・沖縄レースといったイベントも計画の一角として案が挙がっている。JTBはJASFとの協議を希望している。
- ・ いっそジャパンカップを沖縄で行うべきではないか。（石黒）
- ・ ジャパンカップをいきなり沖縄で行うのではなく、新しい大会を作って沖縄で行い、ジャパンカップを合同開催していく流れがよいのではないか。（中澤）
- ・ 新しいレースを作ろうとすると2つに別れてしまうため難しいと思う。（石黒）
- ・ もともとあったヨットレースを大きくするように考えて動くべきではないか。（金子）
- ・ 沖縄で開催すれば中国、韓国のチームも参加し盛り上がっていくのではないか？（石黒）
- ・ キールボートパークは運営側が中長期で利益を生むことができることを説明していかなければならない。新しいハーバーのモデルケースとなって欲しい。（中澤）
- ・ レースや普及を含め、KBK委員会では様々な提案を行う必要がある。（中澤）
- ・ オリンピックセミナーに参加し、資金や人的・物的資源には限りがあるということを考慮し、絵に描いた餅にならないように取り組まなければいけないと感じた。（金子）

◆ 国際委員会外洋部門について

- ・ 若手人材を輩出してほしいという要望がある。
- ・ KBK委員会から英語が堪能で選手としても活躍している人員を派遣したらどうか？KBK委員として参加するのであれば派遣支援ができるように働きかけたい。（中澤）
- ・ 海外レースなどの情報が一部しか入ってこず、ボーダーレスにするためには、多くの日本人が国際会議に参加するようにしたい。（中澤）
- ・ KBK委員会から上記に参加したいメンバーがいるので、委員長から各方面へのアプローチを行う。

◆ 今後の大学マッチについて

- ・ 3年間担当田代さんがJYMA理事を退任されるため、どうやって継続するか？（中澤）

- JYMA 主催にて来年も実施する予定。KBK 委員会としても今まで通り支援をしていこうと考えている。(石黒)

- ◆ 2016 年の J/24 世界選手権について
 - ブラックパールが J/24 を購入して活動を開始している。
 - 来年の J/24 全日本選手権は和歌山で行うべきではないか？ワールドの前年に行うことで、2016 年の段取りも分かり、船も和歌山において活動しやすくなる。新規参入する関西チームの活動コストを抑えることができるのではないか？船を 1 箇所置くことで若手選手の活動基盤にもなり若手セーラーのキールボートへの受け口になるのではないか。(中澤)

- ◆ 閉会 21;25
- ◆ 次回委員会の開催日：未定、決定次第 web 公開及びメール配信します。